

一般質問(要旨)

第4回定例会の主な日程

- 11月4日(木) **本会議**
(開会・知事提出議案説明)
- 11月8日(月) **本会議**
9日(火) (一般質問・質疑)
- 11月10日(水) **常任委員会**
- 11月11日(木) **決算特別委員会**
- 11月15日(月) **本会議**
(委員長報告、採決、閉会)

交通事故を予防するための安全対策は
反射材の着用が徹底されるよう
働きかけていく

狩野岳也議員(自民) 交通事故の予防のため反射材を身に付けるなどの対策が進められているが、現在、児童生徒の制服やかばんに付いている反射材は小さくて目立たないものが多い。危険を予防できるあらゆる対策を施した制服や自転車を導入するなど児童生徒の安全対策が急務と考えるがどうか。

教育長 本県の交通事故は十六時から二十時までが全体の四割を占めている。そのため、学校では明るい色の服や反射材を身に付けるよう児童生徒に指導している。制服については、反射素材を縫い込んだものを導入促進していく。自転車については、車輪により多くの反射板を装着

本県魅力度二年連続最下位への評価は
イメージアップのため
魅力度向上に努力したい

小田木真代議員(自民) ブランド総合研究所の「地域ブランド調査2010」において、本県の魅力度は二年連続最下位。郷土愛の調査では本県出身者の本県への愛着度・自慢度ともに全国第四十六位とのこと。この結果に対し強い危機感を持つべきと考えるが知事の評価は。

知事 一つ一つの指標にこだわ

るのではなく、客観的に県民生活が豊かになっているかなどを判断していくことが重要と考えるが、本調査は一定の注目を集めていることも事実であり、イメージアップのため少しでも魅力度が向上するよう努力していきたい。また、郷土愛の調査結果は大変残念。魅力度を高めるためには県民一人一人が地域に

しを遮っている樹木の伐採などにより見通しの確保に努めている。反射材については、安全教育や街頭指導活動で利用促進を図っていく。また、ハイブリッド車などの静音性に関する対策については、国土交通省からガイドラインが示され、自動車メーカーなどの関係者に周知されているものと承知している。(ほかに、民意の反映、テレビによる情報配信なども質問)

するよう啓発を行っている。

議員 県内の交通事故死亡事故は十月末現在百六十五人で全国ワースト三位となっている。特に高齢者の夜間の死亡事故や歩行者の横断中の事故が顕著であり、その多くは見通しの悪い交差点で起こっている。そこで、見通しの悪い交差点での死亡事故防止のためどのような対策をしていくのか、反射材の普及をどう進めるのか、自動車メーカーが安全な自動車をつくるためどのような助言ができるかを含め、交差点の事故予防について伺う。

警察本部長 信号機のない見通しの悪い交差点では一時停止の交通規制の実施とともに、見通



交通事故予防のため反射材を身に付けましょう

県北ジオパーク認定への取り組みは
地域の意向などを踏まえ
協力していく

鈴木徳穂議員(自民) 茨城大学と県北七市町などが連携する「県北ジオパーク推進協議会」が今秋、具体的に動き出したと聞くが、ジオパークに認定されれば知名度が向上し観光事業にも資する。山あり谷ありで都市型の発展が難しい県北地域は、ジオパークのようにそういうところではできないことを大いに利用して地域活性化に役立てて欲しい。県北ジオパークの認定への取り組みについて伺う。

企画部長 県北地域の豊かな自然を活かしたジオパークの取り組みは新たな視点での県北振興策として大変重要である。県としては、茨城大学と共同でシンポジウムを開催するほか、協議

愛着や誇りを持ち、積極的に地域の情報を発信していくことが重要で、県民自身が自慢しないものを他県の人がほめてくれることを期待しても無理である。地域おこしなどで全国的な発信を試みる市町村などと協力し、本県の魅力度向上に取り組んでいく。

議員 消防救急無線・指令業務の県域一ブロックでの整備ができなくなったと聞いているが、デジタル化は平成二十八年五月までに行わなければならない。消防救急無線のデジタル化に今

後どのように取り組むのか。

生活環境部長 一部の市町村から単独整備が表明されるなど、県域一ブロックに向けた調整を進めるのが厳しい状況にあるが、共同整備には整備費用の大幅削減など大きなメリットがあるので、極力多くの市町村が統一指令センターを前提とする共同整備に参画できるように、今後も実現に向けて支援していく。

(ほかに、県北地域の振興、女性職員の登用と働きやすい職場環境づくりなども質問)

会にオブザーバーとして参加しているところであるが、今後とも地域の意向や活動の盛り上げりを踏まえ協力していく。

議員 今の日本は、短所をなくし平均を底上げする教育が中心で、できる子ども、秀でた分野をさらに伸ばす教育はあまり行われていないのではないかと。若者の海外で学ぶ意欲がアジアの国々に比べて低い中、将来日本を背負って立つ人材を育成すべく一人一人の能力を最大限に伸ばす教育の推進について伺う。

教育長 英語によるコミュニケーション能力を向上させるとともに、海外交流事業などの国際教育に力を入れる。また、科学技術創造立県や地域のものづ



茨城の魅力度向上に活躍中のキャラクター達。左から、はぎまる(高萩市)、ハッスル黄門(県)、ほこまる(鉦田市)



五浦海岸でのジオツアーの様子(写真提供:茨城大学地質情報活用プロジェクト)